
A-LAB Exhibition Vol. 45「家具と抽出し Furniture and Drawer」を開催

1 趣旨

尼崎市では、アールスペース「A-LAB」（えーらぼ）において、ふだんは意識しにくい物事やそのあり方をミニマルな立体造形を通して考察してきた二人のアーティスト、松井沙都子と松延総司による展覧会「家具と抽出し Furniture and Drawer」を開催します。

二人の作品は、展示する空間自体も重要な表現の要素となることから、この企画では、出品作家の松井沙都子がゲストキュレーターとして全体のテーマを練り上げ、コラボレーターの松延総司とともに各展示室の構成を行います。

日常生活に空気のように存在している「家具」をモチーフとすることで、私たちがアートを見る目をずらしていくこの試みは、アートを鑑賞するという行為自体への問いかけも含んでいます。本展を通してアートへの様々な想像を巡らせ、多くの疑問や発見に出会っていただければ幸いです。

2 概要

会 期：令和 6 年 10 月 19 日（土）～12 月 15 日（日）

会 場：A-LAB（尼崎市西長洲町 2-33-1）

入場料：無料

時 間：午前 10 時～午後 6 時

※休館日：火曜日

出展者：松井沙都子、松延総司

問合せ：尼崎市文化振興課

電話 06-6489-6385 FAX 06-6489-6702

主 催：尼崎市

3 関連イベント

《「家具と抽象とアートのお話」》

ゲストに沢山遼さん（美術批評家・武蔵野美術大学准教授）をお招きして、出展作家との対談を行います。

日 時：10 月 26 日（土） 午後 2 時～午後 3 時 30 分

以 上

午前10時—午後6時 火曜日休館 入場無料
2024.10.19 土—12.15 日

1
松井沙都子
Signage #1
2022

2
松延総司
Pattern of Dark #1, #2
(Light and Shade)
2019

家具と抽出し
Furniture
and
Drawer

Courtesy of A2X, 2022 Photo: Yuki Moriya



会 期	2024 年 10 月 19 日 (土) ~ 12 月 15 日 (日)
開 館 時 間	午前 10 時 ~ 午後 6 時
会 場	A-LAB (えーらぼ) 尼崎市西長洲町 2-33-1
休 館 日	火曜日
入 場 料	無料
主 催	尼崎市

開催要旨

「足りないもの」や「見えていないもの」など、ふだんは意識しにくい物事やそのあり方をミニマルな立体造形を通して考察してきた二人のアーティスト、松井沙都子と松延総司による展覧会「家具と抽出し」を開催します。二人の作品は、展示する空間自体も重要な表現の要素となることから、この企画では、出品作家の松井沙都子がゲストキュレーターとして全体のテーマを練り上げ、コラボレーターの松延総司とともに各展示室の構成を行います。

日常生活に空気のように存在している「家具」をモチーフとすることで、私たちがアートを見る目をずらしていくこの試みは、アートを鑑賞するという行為自体への問いかけも含んでいます。本展を通してアートへの様々な想像を巡らせ、多くの疑問や発見に出会っていただければ幸いです。

A-LAB

「家具と抽出し」

本展はいわゆる家具の展覧会ではない。展示作品は、もしかすると実際の家具に似ているかもしれないが、その性質や存在の意味は大きく異なる。

私と松延さんの作品は、「欠如」や「地」といった捉えどころのない概念を背景に持つ。一方で両者の作品には、形状や材質、構造といった目に見える要素において、共に「家具」的であるという側面を持つ。他者と共有しづらい概念について、より多くの方に想像を巡らせていただくきっかけとなるよう、本展では「家具」をテーマにすることにした。つまり本展に展示されるのは、実際の家具のようでありながら、家具そのものとは言い切れない、美術作品である。

ちなみに展覧会タイトルの「家具」に続く「抽出し」という言葉は、松延さんが提案してくれたもので、美術批評家の沢山遼さんによる「“抽象”と“抽出し”には関連性がある」との話が参照されている。対象からエッセンスを抽出するという意味を持つ「抽象」には、その語の示す通り「抽出し」からものを取り出す所作に通じているためではないかと、私は考えている。

馴染み深い「家具」の距離感で作品に接しつつ、美術の本質ともいえる「抽象」の面白さに、少しでも触れていただけるような機会となれば幸いです。

松井沙都子（本展ゲストキュレーター／出品作家）

関連イベント

「家具と抽象とアートのお話」

日時：10月26日（土）午後2時～午後3時30分

ゲストに沢山遼さん（美術批評家・武蔵野美術大学准教授）をお招きして、出品作家との対談を行います。定員先着20人。

メール（amalove.a.lab@gmail.com）で申込必要。

イベント名、氏名、電話番号、参加人数を明記の上、お送りください。

■沢山 遼（さわやま りょう）

1982年生まれ。

美術批評家・武蔵野美術大学美学美術史研究室准教授。

著書に『絵画の力学』（書肆侃侃房、2020年）。

共著に、国立新美術館（編）『今、絵画について考える』（水声社、2023年）など。



広報用画像

このプレスリリースに掲載されている画像データ（※6～8ページ参照）をプレス掲載用にご用意しております。下記の使用条件をご了承の上、A-LABまでお申し込みください。

使用条件：

- ・広報画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットを表示ください。
 - ・トリミングや画像加工などはご遠慮ください。
 - ・アーカイブのため、後日掲載紙、URLなどをお送りください。
- 以上、ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

問い合わせ先

A-LAB（午前10時～午後6時 ＊火曜日休館）

担当：八木、田野

電話 / FAX 06-7163-7108 メール amalove.a.lab@gmail.com

尼崎市文化振興課（平日：午前8時45分～午後5時30分）

担当：山城、原田

電話 06-6489-6385 / FAX 06-6489-6702

作家略歴

■ 松井 沙都子（まつい さとこ）



1981 年 兵庫県生まれ。現在、京都市を拠点に活動

2006 年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画修了

2017 年 博士（美術）（京都市立芸術大学）

「足りなさ」という観点から、〈欠如〉を孕む作品を制作している。本展では「現代の日本の家」をモチーフとするインスタレーション作品のほか、「足りなさ」をひとまとまりの構造物に落とし込む「Frames」シリーズを出品する。

【主な個展】

2013 年 TWS-Emerging 206 「Blind Place」、トーキョーワンダーサイト本郷、東京

2015 年 「ブランクの住空間」、Gallery PARC、京都

2018 年 「モデルハウス」、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA、京都

2018 年 「抽象住宅－ワンルーム－」、ギャラリー恵風、京都

2019 年 「ホーム・スイート・ホーム」、MEDIA SHOP gallery 2、京都

【主なグループ展】

2013 年 「kyoto studio」、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA、京都

2014 年 「はならあと こあ」ならきたまちエリア「在り処をみる」、工場跡、奈良

2016 年 「TEMPEL/MATERIAL」、大徳寺黄梅院、京都

2021 年 セイアンアーツアテンション 14 「Re:Home」、成安造形大学【キャンパスが美術館】、滋賀

2022 年 「連続するプロジェクト／インスタレーションを所有する」、BnA Alter Museum、京都

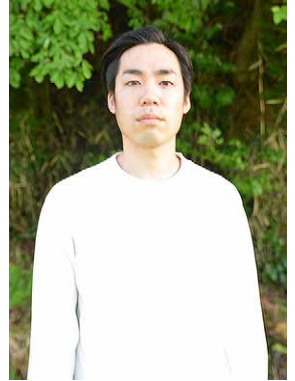
2023 年 「zu Hause 自宅と承認」、デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）ギャラリーC、兵庫

2023 年 「ミニマル美術」、KUNST ARZT、京都

2023 年 「outside and the inside 7－眺めのままに」、Ogallery eyes、大阪

作家略歴

■ 松延 総司（まつのべ そうし）



1988 年 熊本県生まれ。現在、滋賀県を拠点に活動。
2008 年 京都嵯峨芸術大学短期大学部（現：嵯峨美術短期大学）卒業
2023 年 ポーラ美術振興財団在外研修員としてフランスにて研修

「線」「影」「無意識」「地」など捉えどころのない事物を主題とし、それらがどのように人々に知覚され、存在しているのか、その法則や特性を抽出／再構築するような作品を制作している。

【主な個展】

2019 年「See the Shades」、HAGIWARA PROJECTS、東京
2020 年「ねじれたネイチャー」、大見新村、京都
2021 年「Ghost of Copy」、The Container、東京
2023 年「雪のうえにのびる道」、札幌文化芸術交流センター SCARTS、北海道
* アレクサンドル・カトーとの共同制作

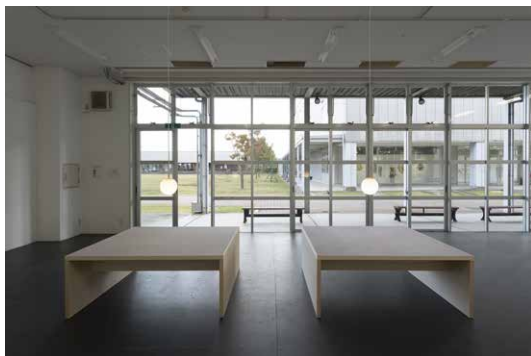
【主なグループ展】

2021 年「Soft Territory かかわりのあわい」、滋賀県立美術館、滋賀
2021 年「Ende Neu」、KINDL-Zentrum für zeitgenössische Kunst、ベルリン・ドイツ
2022 年「石と植物」、滋賀県立美術館、滋賀
2024 年「VOCA 展 2024 現代美術の展望」、上野の森美術館、東京
2024 年「not a house」、MBL Architectes、パリ

【受賞】

2020 年 2019 年度平和堂財団芸術奨励賞（美術部門）

参考図版



1



2



3



4



5

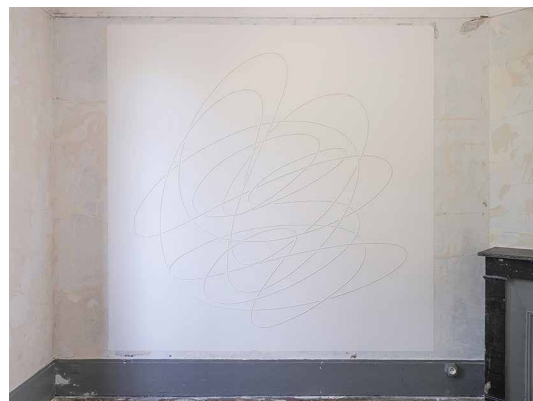


6

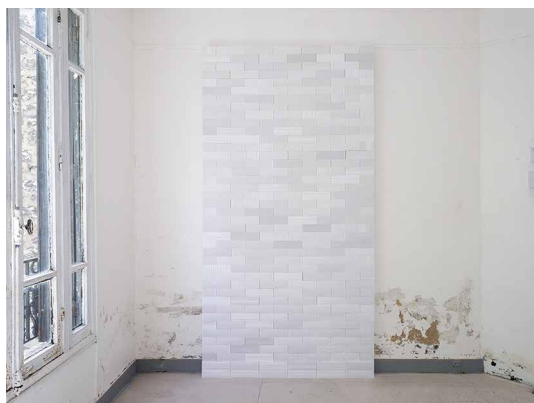
参考図版



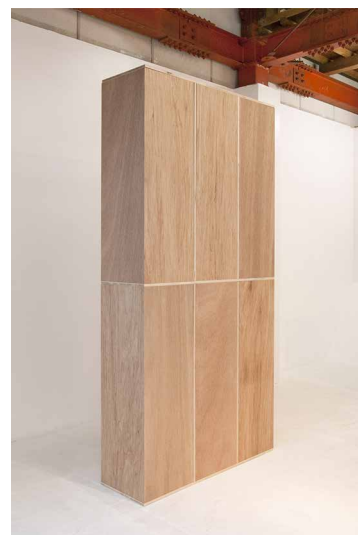
7



8



9



10



11



12

参考図版



13

1. 松井沙都子 | 『ホーム・インテリア（部屋）』 | 2021 撮影：Yuki Moriya
2. 松井沙都子 | 『ホーム・インテリア（壁・照明）』 | 2021 撮影：Yuki Moriya
3. 松井沙都子 | 『Signage #1』 | 2022 | Courtesy of ACK 2022, 撮影：Yuki Moriya
4. 松井沙都子 | 『untitled (frames #13)』 | 2023 撮影：WATANABE ERINA
5. 松井沙都子 | 『untitled (frames #14)』 | 2023
6. 松井沙都子 | 『ふつうの家（家族の書架） Ordinary home (family bookshelf)』 | 2023
7. 松延総司 | 『Pattern of Dark #1, #2 (Light and Shade)』 | 2019
8. 松延総司 | 『Knot (Wall drawing) #5』 | 2024
9. 松延総司 | 『Direction of Materials』 | 2024
10. 松延総司 | 『Shelf #1』 | 2013 撮影：Hideaki Toyoura
11. 松延総司 | 『Shelf #4』 | 2013 撮影：Hideaki Toyoura
12. 松延総司 | 『「SHELVES」展 会場風景』 | 2013 撮影：Hideaki Toyoura
13. 松延総司 | 『「SHELVES」展 会場風景』 | 2013 撮影：Hideaki Toyoura

次回展

「JIN, JIYAN, AZADAI 女性、命、自由」

会期：2025 年 2 月 1 日(土) ～ 3 月 30 日(日)
休館日：火曜(2 月 11 日は開館し、翌日水曜休館。)

概要

第 2 回白髪一雄現代美術賞受賞者、井上裕加里さんの個展を開催します。

出展作家

■ 井上 裕加里 (いのうえ ゆかり)

1991 年 広島県出身。

2012 年 倉敷市立短期大学 服飾美術学科 卒業

2014 年 成安造形大学 芸術学部芸術学科美術領域現代アートコース 卒業

【近年の主な展覧会】

2021 年「Soft Territory かかわりのあわい」、滋賀県立美術館、滋賀

2022 年「第 1 回 MIMOCA EYE / ミモカアイ」、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川

2022 年「Women atone for their sins with death」、KUNST ARZT、京都

2023 年「産まみ(む)めも展」、oz studio 渋谷東、東京 他多数

【近年の主な受賞】

2022 年 第 1 回 MIMOCA EYE / ミモカアイ 選考委員 植松由佳 賞

2023 年 第 2 回 白髪一雄現代美術賞

2024 年 第 1 回 サゴリリサーチアワード 特別賞(加納実紀代応援賞) 他多数

参考作品画像



《Shadow works | 2022》撮影 木奥恵三

午前10時—午後6時 火曜日休館 入場無料
2024.10.19 土—12.15 日

1
松井沙都子
Signage #1
2022

2
松延総司
Pattern of Dark #1, #2
(Light and Shade)
2019

家具と抽出し
Furniture
and
Drawer

Courtesy of ACK, 2022 Photo: Yuki Moriya



家具と抽出し Furniture and Drawer

「足りないもの」や「見えていないもの」など、ふだんは意識しにくい物事やそのあり方をミニマルな立体造形を通して考察してきた二人のアーティスト、松井沙都子と松延総司による展覧会「家具と抽出し」を開催します。二人の作品は、展示する空間自体も重要な表現の要素となることから、この企画では、出品作家の松井沙都子がゲストキュレーターとして全体のテーマを練り上げ、コラボレーターの松延総司とともに各展示室の構成を行います。日常生活に空気のように存在している「家具」をモチーフとすることで、私たちがアートを見る目をずらしていくこの試みは、アートを鑑賞するという行為自体への問いかけも含んでいます。本展を通してアートへの様々な想像を巡らせ、多くの疑問や発見に出会っていただければ幸いです。

A-LAB



右 | 松延総司「SHELVE(S)」展会場風景 2013 Photo: Hideoaki Toyoura
左 | 松井沙都子「ホーム・インテリ」(部屋) 2021 Photo: Yuki Moriya

イベント

家具と抽象とアートのお話

10月26日(土) 午後2時—3時30分

ゲストに沢山遼さん(美術批評家・武蔵野美術大学准教授)をお招きして、出品作家との対談を行います。定員先着20人。
メール(amalove.a.lab@gmail.com)で申込必要。
(イベント名、氏名、電話番号、参加人数を明記)

沢山遼 Ryo Sawayama

美術批評家・武蔵野美術大学美学美術史研究室准教授。
著書に『絵画の力学』(書肆侃侃房、2020年)。共著に、国立新美術館(編)『今、絵画について考える』(水声社、2023年)など。1982年生まれ。



出品作家

松井沙都子 Satoko Matsui



「足りなさ」という観点から、〈欠如〉を孕む作品を制作している。本展では「現代の日本の家」をモチーフとするインスタレーション作品のほか、「足りなさ」をひとまとまりの構造物に落とし込む「Frames」シリーズを出品する。主な個展に「ホーム・スイート・ホーム」(MEDIA SHOP gallery 2、京都、2019)「モデルハウス」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都、2018)「抽象住宅ワンルーム」(ギャラリー恵風、京都、2018)など。1981年生まれ。

松延総司 Soshi Matsunobe



「線」「影」「無意識」「地」など捉えどころのない事物を主題とし、それらがどのように人々に知覚され、存在しているのか、その法則や特性を抽出／再構築するような作品を制作している。主な展覧会に「not a house」(MBL Architectes、パリ、2024)「VOCA展2024 現代美術の展望」(上野の森美術館、東京、2024)「雪のうえにのびる道」(札幌文化芸術交流センター SCARTS、北海道、2023)「石と植物」(滋賀県立美術館、滋賀、2022)「Soft Territory かかわりのあい」(滋賀県立美術館、滋賀、2021)など。2023年ポーラ美術振興財団在外研修員としてフランスにて研修。1988年生まれ。

家具と抽出し

本展はいわゆる家具の展覧会ではない。展示作品は、もしかすると実際の家具に似ているかもしれないが、その性質や存在の意味は大きく異なる。私と松延さんの作品は、「欠如」や「地」といった捉えどころのない概念を背景に持つ。一方で両者の作品には、形状や材質、構造といった目に見える要素において、共に「家具」的であるという側面を持つ。他者と共有しづらい概念について、より多くの方に想像を巡らせていただくきっかけとなるよう、本展では「家具」をテーマにすることにした。つまり本展に展示されるのは、実際の家具のようでありながら、家具そのものとは言い切れない、美術作品である。

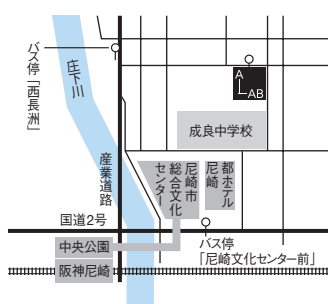
ちなみに展覧会タイトルの「家具」に続く「抽出し」という言葉は、松延さんが提案してくれたもので、美術批評家の沢山遼さんによる「“抽象”と“抽出し”には関連性がある」との話が参照されている。対象からエッセンスを抽出するという意味を持つ「抽象」には、その語の示す通り「抽出し」からものを取り出す所作に通じているためではないかと、私は考えている。馴染み深い「家具」の距離感で作品に接しつつ、美術の本質ともいえる「抽象」の面白さに、少しでも触れていただけるような機会となれば幸いです。

松井沙都子(本展ゲストキュレーター／出品作家)

A
LAB

2024年10月19日(土)—12月15日(日)

開館時間 | 午前10時—午後6時 休館日 | 火曜日 入場料 | 無料



住所

尼崎市西長洲町 2-33-1

※会場に一般用駐車場はありません

問い合わせ先

A-LAB | TEL / FAX 06-7163-7108

尼崎市文化振興課

TEL 06-6489-6385 FAX 06-6489-6702

ama-a-lab.com

Facebook @amalove.a.lab

Instagram @alab_amalove

